この地球では いつもどこかで 朝がはじまっている

谷川俊太郎「朝のリレー」より

私ぐらいの年になると、朝の目覚めがはやい。
五時には 新聞受けの前に立っている。

この時間の空気はとても澄んでいる。
森や木々が再生するために最も呼吸をしている時間だ。

澄んだ空気のおかげで普段は聞こえてこない小さな音が私の体に届く。
川のせせらぎ、風の音、小鳥のさえずり、木の葉のささやく音は、地球が生きている証拠でもある。

そんな中
私の体が今日一日の活動に向けてそわそわしてくる。

私も君たちも 親も兄弟も 友達も
みな同じ場所で同じように生きて 同じように
そわそわしながら 今日という日をむかえているのだ。

地球が生き物がすべてが
今日を生きぬくためにそわそわしている時間なのだ。

大地が呼吸して 命の鼓動とともに
"新しい朝"が毎日のように私たちに届く。

この地球では いつもどこかで朝がはじまっているのだ。

繰り返す自然の摂理の中で、私たちも誰かに受け取った幸せのバトンをリレーしなければならない。

今、この瞬間にも、知らない国を照らす朝日の中で、「おはよう」と誰かが言っているのだ。

様々な人々の新しい朝が始まっていく。
私たちは朝をリレーするのだ。

福二中
校長室だより

ほたる光

平成二十八年七月八日(金)

NO.107

朝焼(あさやけ)の中に
地上の日出(ひい)づる
中村草田男(くさたお)